

木工「鏡額の制作」

千葉県立松戸高等学校 山村鉄弥

材料 シナ材 230×180×20mm

この授業でつきたい力

- ・木を彫る喜びを味わい、立体的に表現する力を修得する。
- ・感性や想像力を働かせて、デザインする力を養う。
- ・木彫の技能を身につける。
- ・日常生活での使用を楽しむ。

手順

- 1 アイデアスケッチ デザインに「重なり」と「透かし」を取り入れると立体的になることを伝える。
- 2 鏡部分の切り抜き 材料にデザインをカーボン紙で写し取り、外縁部と鏡の入る部分を電動糸鋸で切り抜く。
- 3 彫刻刀での作業 重なりのところを、どちらが上か(下か)がわかるように掘り進める。
切り出し刀(印刀)で切り込みを入れ、丸刀で切り込みに向かって彫る。
平刀で彫りの仕上げをする。紙やすりは極力使わせない。
- 4 着色 アクリルガッシュで着色する。
原色のままだとどぎつい色合いになることを伝える。白かレモンイエローを混ぜると落ち着いた感じになるが、派手にしたいときは好きにさせる。
- 5 仕上げ 水性ニスを塗り、くさりか吊り金具をつける。鏡をボンドで貼る。

※生徒にとって木を彫る作業は楽しく、達成感を感じるようだが、着色の作業も丁寧に楽しそうに取り組む。女子にその傾向が強い。